令和４年度　くまもと県民カレッジ主催講座
「大人の理科」コース 第３回

くまもとの植物

日時：2023年2月３日(金)
14:00～15:30
会場：くまもと県民交流館パレア
会議室７

講師：認定NPO法人阿蘇花野協会
専務理事　瀬井 純雄 氏

～「人間　野草　草原」阿蘇を例に～

「ハナシノブ」
〈絶滅危惧IA類〉

・阿蘇だけに自生する代表的な花。
・くまもとの米[三度のときめき]の袋にもイラストが描かれている。

激減しつつある阿蘇の草原。そこに咲き乱れていた貴重な野の花たちが絶滅に瀕している。

認定NPO法人 阿蘇花野協会(会員数：約300名)が再生プロジェクトを立ち上げ、放棄地の採草・野焼きや放置人工林伐採、その他様々な取り組みを実施し、「花野」の再生・保全を目指して奮闘を続けている。

＊花野：花の咲いている秋の野辺(広辞苑)。万葉の昔から和歌に詠まれていた言葉。俳句の秋の季語でもある。

氷河時代、アジア大陸と地続きであった九州に、ハナシノブ、ケルリソウ、ツクシマツモト、タマボウキ、ヤツシロソウ、その他多くの貴重種が渡ってきた。

何万年もの間、ヒトと自然の共生によって維持されていた阿蘇の草原が、今や激減し、そこでしか生育できない野の花たちが消滅しようとしている。

「ツクシマツモト」
＜絶滅危惧Ⅱ類＞

阿蘇の草原が荒廃してしまった原因

農村社会の動力源・肥料源であった農耕牛は今や石油に取って代わられ、農業は機械と化学肥料によって成立する時代に。

六十年ほど前までは、農耕牛の飼料(草)が人間の手によって定期的に採草されることで、草原を多様な草原植物の生育に程よい環境に整えることが可能だった。

また、牧畜業の衰退もあり、草を食べてくれる牛馬や農家の減少も手伝って、放棄地の拡大につながることに。

阿蘇「花野」再生プロジェクト

放棄された原野や放置人工林をナショナル・トラストにより買い上げ、草刈り、伐採、野焼き等の昔ながらの維持管理を行い、ハナシノブ、ヒメユリなどの生育地である「採草地」を復元・保全して阿蘇の野の花を未来に繋げることを目指す。

＊ナショナル・トラスト：自然環境などを保護するために、市民が募金や寄贈によって土地を保有し、保全、管理、再生を行う運動。

草原の維持に効果のあった野焼きは延焼事故の危険が大きくなり、中止となったが、刈草焼きで継続する。
また、農家の草原維持のモチベーションを高めるためにも、草資源の様々な活用を模索中。

＜事例＞

1）「刈干パック」(直方体に固められた野草堆肥。牛の飼料等にも利用)として販売。トマトの病気にも有効らしく、農家さんにも評判が良い。
2）茅葺(かやぶき)材となるススキの活用。
3）草千里、阿蘇山上広場などの草原景観を維持し、阿蘇の観光資源の拠点に。

「オキナグサ」
＜絶滅危惧Ⅱ類＞

＊「阿蘇茅葺工房」のHP上に、かやぶきの犬小屋やプレハブを見つけてワクワク。

＊　阿蘇花野協会のHPには、阿蘇に生きる動植物の美しい写真が多数掲載されている他、過去の会報「花野たより」もすべて読むことができます。

パレア広報ボランティア　・くま吉(記)